

事業報告

理事長あいさつ

令和元年に確認された新型コロナウイルス（COVID19）が翌年感染拡大し、人類共通の社会問題になって丸3年が経ちます。この間、多くの有識者の知恵や市民の努力によって、克服の兆しは見えてはきましたが、令和4年度については、まだまだ経済活動・社会活動にも一定の制約があったと言わざるをえません。当財団におきましても、同様に困難な状況下での事業推進活動を余儀なくされましたが、その状況の中でも感染拡大防止対策に最大の注意を払いつつ、リモート会議などの設備を積極的に活用しながら、計画した事業をほぼ予定通りに遂行することができました。これは関係各位のご理解と、ご協力の賜物であり、改めて心より御礼を申し上げます。

令和4年度の事業トピックスとしては、まず「学術・科学技術の振興」分野で、過去54年間継続する「倉田奨励金」の一環として、「人文・社会科学シンポジウム」を、本年3月に初の試みとして、WEB形式にて開催いたしました。同シンポジウムは昨今の発展著しい科学技術社会におき、その発展が社会に与える影響を、人文・社会科学分野の観点から考察する場を提供するもので、多くの方にご視聴頂きました。また同じく「学術・科学技術の振興」分野で、ASEANの社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究を表彰する「日立財団アジアイノベーションアワード」においては、令和4年度で3年目を迎え、コロナの影響で長らく対面での表彰式を見合わせておりましたが、本年1月に東京で表彰式、及び研究発表会を開催いたしました。当日は過去3年間の最優秀賞受賞者、並びに選考委員会各位をお招きし、受賞者や選考委員との交流を深める大変良い機会となりました。

その他、日立財団科学技術セミナーも実施し、参加者から多くのコメントを頂きました。

「人づくり」分野では、コロナ禍の厳しい環境ではありましたが、理工系女子応援プロジェクト「公開対談&ワークショップ」を開催しました。また「日立みらいイノベータープログラム」は、4校の小学校におき出張授業を実施いたしました。並行して翌年度の実施校を模索し、令和5年度は関東地域のみにとどまらず、秋田県や大分県での出張授業も視野に入れております。

最後に「多文化共生社会の構築」分野では、昨年12月に「外国に繋がりのある高校生たちの『活躍する力』を拓く」をテーマに、オンラインにてフォーラムを開催いたしました。また新しい試みとして、令和5年度には、電子ジャーナルの発行を計画しており、そのためのワーキンググループを令和4年度に立ち上げました。本ジャーナルは、多文化共生社会の構築に関連する学術分野の有識者が、相互の専門性を活かし、意見交換や発展的交流を行い、同分野での新たな研究や、各学術分野の枠を超えた繋がり場を、提供することを目的としております。

平成27年4月の弊財団の発足以来、時代の潮流に則した社会貢献事業の提供を心掛けながら、さまざまな取り組みを行ってまいりました。今後もSDGsを意識した持続可能な社会の構築、日本の国民生活の向上、さらには国際社会の発展の一助となるべく、弊財団ならではの社会貢献事業を進めてまいります。

公益財団法人 日立財団

理事長 内藤 理

倉田奨励金（研究助成事業）

倉田奨励金は、日立製作所第2代社長の倉田主税が提唱し創設した研究助成金で、グローバルな社会課題解決力を担う次世代の研究者による自然科学・工学研究、および高度科学技術社会に通底する人文・社会科学的研究を対象とする研究助成金です。

2022年度は全国より213件の応募があり、厳正な審査を経て44名の研究者への助成を決定しました。

2023年3月2日（木）には、日立製作所 協創の森「日立馬場記念ホール」において、倉田奨励金贈呈式を開催しました。贈呈式では、選考委員長の花木啓祐氏から今年度の選考経過報告があり、研究テーマの紹介とともに理事長からひとりひとりに贈呈書を手渡しました。また、式の最後には各部門・分野の代表者4名にご登壇いただき今後の抱負などをスピーチいただきました。

贈呈式に続いて、同会場にて研究期間を終えた受領者による研究報告会を開催し、代表者4名に研究成果を発表いただきました。

■ 2022年度（第54回）倉田奨励金 助成一覧、贈呈式・研究報告会

<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics100.html>



■ 研究報告会

発表1：エネルギー・環境分野／岡 弘樹氏（大阪大学）

ポリチオフェンによる可視光照射下での
カーボンフリーグリーン水素製造法の確立

発表2：都市・交通分野／曾我 昌史氏（東京大学）

生物多様性・生態系サービスの保全に最適な都市開発 戦略の探索：
大規模フィールド調査および シミュレーションによる検証

発表3：健康・医療分野／堤 新一郎氏（理化学研究所）

精神神経疾患の発症に関わる小脳神経回路基盤

発表4：人文・社会科学研究部門／種村 剛氏（北海道大学）

演劇を用いた科学技術コミュニケーション手法の開発および
参加者の先端科学技術の受容態度の変容に関する調査



日立財団科学技術セミナー（啓発事業）

2022年11月26日（土）、第18回 日立財団科学技術セミナーをオンラインで開催しました。脳情報学の研究をされている神谷之康氏（京都大学大学院 情報学研究科 教授）を講師にお招きし、頭の中のイメージや夢で見た内容をAIで解読して可視化する技術「ブレイン・デコーディング」の研究についてご講演いただきました。

■実績：登録者729名 実聴講者364名

■テーマ：「ブレイン・デコーディング—脳内イメージをAIで解読する」

■開催日時：2022年11月26日（土）14:00～15:30

■講師：神谷之康氏

京都大学 大学院情報学研究科 教授、ATR情報研究所 客員室長（ATRフェロー）

■開催報告：<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics093.html>



日立感染症関連研究支援基金（研究助成事業）

2023年3月7日（火）、日立感染症関連研究支援基金第1回中間報告会を開催しました。

日立感染症関連研究支援基金は、コロナ禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす研究に対して助成するもので、2021年に、株式会社日立製作所ならびに同社役員や従業員、グループ会社役員からの寄付によって新設されました。

第1回中間報告会では、各研究プロジェクトの代表者が、これまでの研究活動と今後の活動予定を報告しました。報告後の質疑応答では、選考委員を含む出席者との活発な議論が行われました。

■日立感染症関連研究支援基金 第1回中間報告会開催報告：<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics099.html>



日立財団アジアイノベーションアワード (表彰事業)

日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために、2020年度より開始した表彰事業です。

本アワードでは、持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

2022年度は対象大学から推薦による応募を受け付け、厳正なる審査の結果、16名の受賞者が選定されました。

■ 2022年度 (第3回) 日立財団アジアイノベーションアワード受賞者
<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics094.html>



最優秀賞



農業廃棄物由来の
水処理用バイオベースエアロゲル

Dr. Phung Thi Kim Le ホーチミン市工科大学



ハイブリッド材料ベースの吸着剤の開発と
導入による安全な水源の提供

Dr. Sri Juari Santosa ガジャマダ大学



優秀賞



食品廃棄物からバイオガスと液体肥料を回収する
トルビ (Toren Biogas, Torbi) の開発

Dr. Cindy Rianti Priadi インドネシア大学



地域社会に根差した
マルチハザード早期警報システムの開発

Dr. Teuku Faisal Fathani ガジャマダ大学



政府と産業界の協力による
包括的で持続可能な都市周辺地域の構築

Dr. Delik Hudalah バンドン工科大学



生活廃水処理と持続可能な都市の実現に向けた
湿地型屋上 (WR) システム

Dr. Thanh Xuan Bui ホーチミン市工科大学



奨励賞

カシューアップルを用いた高付加価値ビネガー製品の開発

Dr. Chim Chay 王立農業大学



作物が必要とする窒素および亜鉛肥料の量を50%削減する
Oryzinc® バイオイノキュラント

Mr. Robert Alejandro Nepomuceno フィリピン大学ロスバニオス校



種の発見、保全、水産資源管理のための淡水生物多様性調査

Dr. Emmanuel Diza Delocado アテネオ・デ・マニラ大学



養豚場向けバイオガス発生・精製・供給システムを備えた
廃水処理システムとバイオ肥料の製造・流通網の確立

Dr. Sounthisack Phommachanh ラオス国立大学



フィリピン地下水アウトルック (PhiGO) プロジェクト

Dr. Maria Aileen Leah Guerrero Guzman アテネオ・デ・マニラ大学



嫌気性・好気性を組み合わせた
繊維産業廃水処理プロセスの開発

Dr. Tjandra Setiadi バンドン工科大学



SONJO: パンデミック下のジョグジャカルタにおける
オンライン型社会資本を用いた人道支援

Dr. Rimawan Pradiptyo ガジャマダ大学



廃水浄化技術に用いる金属酸化物複合材料の開発

Dr. Tuan Anh Vu ハノイ工科大学



包括的で持続可能な都市化のためのブロックチェーンを利用した
ビルディング・インフォメーション・モデリング (BIM) 管理技術

Dr. Riri Fitri Sari インドネシア大学



Aloxy 一葉を用いた持続可能な照明システム

Dr. Yen Thi Thai Doan ハノイ工科大学



2023年1月10日 (火)、日立財団アジアイノベーションアワード2022年度表彰式を東京で開催しました。

コロナ禍のため、本アワードではこれまで表彰式の開催を見送ってききましたが、本年度は2020年度・2021年度・2022年度の最優秀賞受賞者を日本に招待しての表彰式開催が実現し、当日は各受賞者による研究概要発表も行われました。

■ 日立財団アジアイノベーションアワード 2022年度表彰式開催報告
<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics096.html>



日立みらいイノベータープログラム (出張授業)

2022年度も教育委員会・小学校と綿密に連携を図り、4校に対し、本プログラムを実施しました。昨年度に引き続き、コロナ禍での実施となりましたが、教育現場は、コロナ以前の日常に戻つつあります。全4校のうち2校はオンラインの出張授業、残り2校は、感染対策に十分配慮し、対面で実施しました。

■実績：4県4校8クラス 小学校受講者263名/講師19名

■実施校と講師派遣元

自治体	実施校	講師派遣元
千葉県柏市	柏市立酒井根東小学校	日立物流 (現：ロジスティード)
埼玉県戸田市	戸田市立戸田南小学校	日立アカデミー、日立社会情報サービス、日立製作所
群馬県玉村町	玉村町立上陽小学校	日立ソリューションズ・テクノロジー
茨城県日立市	日立市立大みか小学校	日立製作所



■開催期間：2022年9月～2023年1月

理工系女子応援プロジェクト (啓発事業)

「研究者になってHAPPY!! ～進路・仕事・子育てのこと教えちゃいます～」と題し2022年8月2日(火)に公開対談&ワークショップを開催しました。会場となった株式会社日立製作所 中央研究所の施設見学も行い、23名の女子中高生に参加いただきました。

■パイオニアトークVol.8 研究者になってHAPPY!! ～進路・仕事・子育てのこと教えちゃいます～

■ゲスト：株式会社日立製作所 研究開発グループ 寺本 やえみ氏、田中 佐知氏

■インタビュアー：サイエンスエンターテイナー 五十嵐 美樹氏

■対談： <https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/dialog/vol8/01.html>



多文化共生社会の構築

多文化共生社会の構築フォーラム (啓発事業)

2022年12月10日(土)、多文化共生社会の構築フォーラム「外国につながるのある高校生たちの『活躍する力』を拓く～教育の実態が問いかける支援のあり方～」をオンラインで開催しました。

■実績：登録者365名 実聴講者254名 後日配信のオンデマンド視聴者80名

■テーマ：「外国につながるのある高校生たちの『活躍する力』を拓く～教育の実態が問いかける支援のあり方～」

■開催日時：2022年12月10日(土) 13:00～17:00 (オンライン開催)

■講演：石田 善顕氏 文部科学省 総合教育政策局 国際教育課長
額賀 美紗子氏 東京大学大学院 教育学研究科 教授

■パネル討論：神奈川県外国ルーツの学生が後輩のために作った「多文化ユースプロジェクト」活動報告
OG・OBメンバーが後輩に伝える「日本での立ち位置と生き方」の共有
モデレーター……高橋 清樹氏

認定NPO法人 多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net) 事務局長

■講演録：<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics098.html>

